

様式 2

県立高等学校重点校制度に係る成果報告書

学校名 岩美高等学校

重点項目	社会人等資質育成	提出日	令和 5年 4月 14日
------	----------	-----	--------------

1 学校目標	
<p>(1) 郷土を愛し、鳥取県及び地域に貢献する人財を育成する。 (2) 自らを信じ、他者を敬い、礼節を重んじる人間を育成する。</p>	
2 重点項目に係る目標・成果	
目標	成果
<p>(1) キャリア教育を推進し、自らの将来について主体的に考える力を養う。 (2) 生徒の主体的な学びを支援し、解決する力、決断する力を身につけさせる。 (3) 多様な生徒を理解し、一人ひとりの自己肯定感を伸長する。 <数値目標> ・基礎力診断テストにおけるD3層の生徒数 →1、2年生とも5月次→12月次で50%減(令和3年度は45%減) ・第1志望での進路決定率→95%以上(令和3年度94%) ・岩美高版UDを意識して教育活動を展開している教員の割合 →80%以上(令和3年度70.6%)</p>	<p>○生徒の基礎学力の向上感は年度末後半にかけて90%近くなったが昨年度には及ばず、保護者についても年度末前半の84%から7ポイント減少している。 ○「進路実現に向けて行動を起こしている」と回答した生徒は67%と昨年度よりも減少している。多様な生徒を受け入れている現状を踏まえ、個に応じた支援・指導が求められる状況にある。 <数値結果> ・基礎力診断テストのD3層の生徒数 →1、2年生とも5月次→12月次で33%減にとどまった。 ・第1志望での進路決定率 →94%と目標をやや下回った ・UDを意識して教育活動を展開している教員の割合 →68.7%と昨年度比・10%と目標を大きく下回った。</p>
3 実施事業	
<p>【高等学校課事業】 (1) ふるさとキャリア教育充実事業(キャリア塾等) (2) とっとり高校魅力化推進事業(高校魅力化事業) 【独自事業】 (1) 生涯を通して学び続ける人材の育成 ア 学びチャレンジプログラム イ 生徒学習力向上対策 ウ 進路意識の高揚 (2) 社会で活躍する人材の育成 ア 福祉交流活動 イ 手話技術の向上</p>	
4 総合所見(成果・評価)	
<p>・授業規律が保たれ、落ち着いて授業に臨む姿勢が常態化しているが、授業に真面目に取り組んでいるにもかかわらず学力の向上を実感できない生徒も存在する。学力の向上を実感できる評価の工夫も含めた新学習指導要領に対応した授業改善のさらなる推進が求められる。 ・生徒の「授業のねらいのわかりやすさ」「板書のわかりやすさ」についての評価は12月の調査では7月よりも肯定的回答率が回復している。その一方で、「学力の向上感」に係る質問では教員、保護者ともに肯定的回答率が低下している。さらには保護者の中には「学力の向上感」を感じているものの「授業のわかりやすさ」については厳しい回答も見られる。背景には、特に1年生の人数が増えたことにより幅広い学力層の生徒に学習指導が対応し切れていないことへの保護者の不信があるとも言える。その結果、基礎力診断テストのD3層の生徒数について目標を達成することができなかった。観点別評価の導入は学習指導や評価の在り方について教員自身が実践を見直す契機でもある。UDを意識した教育の実践がすべての生徒にとってメリ</p>	

ットをもたらすという自覚を持って「指導と評価の一体化」の観点から自らの実践の不断の点検を進める必要がある。

- ・ コロナ禍の影響で中止になった行事については代替行事を実施したが、進路に関する行事それぞれの関連性が弱く、生徒の進路決定への意識を高めさせることが不十分だった。結果として生徒の中には進路決定の時期が遅れぎみになる者もあり、そのような生徒が面接での応対への準備が十分にできず第1志望不合格となった。

進路に関する学習が単に大学調べや講話を聴くことで終わることなく、生徒が自己の在り方生き方を自己の進路と結び付けて考え、具体的に行動を起こす契機となるよう抜本的な進路行事の精選・再編成を進める必要がある。

- ・ 鳥取大学に1名、公立鳥取環境大学に2名の生徒が合格した。総合型選抜及び学校推薦型選抜への対応を主軸とした支援体制の充実を図るとともに、地域連携及び探究学習成果を効果的に運用した成果である。

※枚数任意